平成 16 年 6 月の解説（府県天気予報）

【6 月の天候状況】

北日本から西日本にかけて晴れて気温の高い日が多く、北海道から九州にかけての 32 地点で月平均気温の最高値を記録しました。特に北海道では月平均気温が平年値を 2℃以上も上回りました。

6 日から 7 日にかけて梅雨前線が北上して、近畿地方から東北地方にかけてほぼ一斉に梅雨入りしましたが、全般的にみれば梅雨前線が日本の南海上に南下して不活発だった日が多いため、広い地域で平年の降水量を下回りました。特に九州地方では平年の 30%以下となった所が 5 地点もあり、牛深（熊本県）の月降水量は 52.0mm（平年の 13%）で、月降水量の最小値を更新しました。一方、東海地方と南西諸島などでは、11 日と 21 日に上陸した台風の影響も加わって、降水量が平年を上回りました。

また、日照時間は、東北地方の日本海側と南西諸島を除いて、広い地域で平年を上回りました。特に関東地方と九州地方では平年の 150%以上の日照時間となった所もあります。

昭和 26 年以降の統計によると、6 月としては最多の 5 個の台風が発生し、そのうち台風第 4 号と第 6 号が、ともに高知県に上陸しました（6 月の上陸数 2 個は平成 9 年と並んでタイ記録）。

【6 月の検証結果】

17 時発表予報の「降水の有無」の適中率は、全国平均で明日予報・明後日予報とも例年（注）より 4 ポイント高い、85%と 79%でした。地域的に見ても、例年より 10 ポイント高い関東甲信地方をはじめ、ほぼ全国的に例年より高くなっています。

最高気温の予報誤差は、全国平均で 0.2℃小さい 1.8℃でした。地域的に見ても、例年より 0.6℃小さい東北地方をはじめ、ほぼ全国的に例年より小さくなっています。

最低気温の予報誤差は、全国平均で例年並の 1.3℃でした。地域的には、ばらつきがあり、九州南部地方では例年より 0.3℃小さかった一方、関東甲信地方と沖縄地方では例年より 0.2℃大きくなっています。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の天気予報から】―― 静岡の大雨（6 月 30 日についての予報から） ――

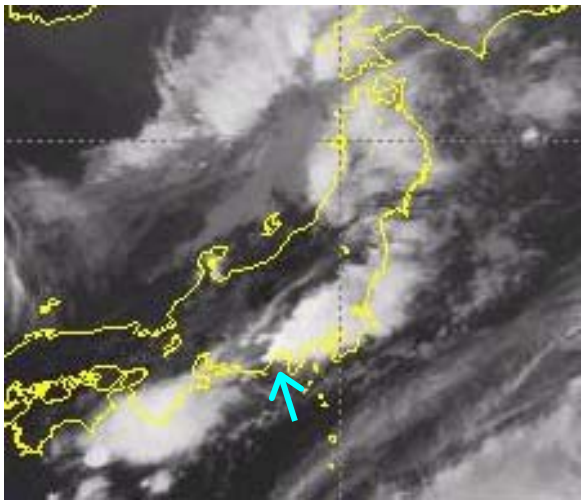
梅雨の最盛期に入り、太平洋高気圧の周辺部を回り込むように湿った空気が流れ込むと、上空の寒気や地形、日射などが影響して、局地的な大雨となる場合があります。しかし、このような大雨の発生する時刻や場所を前日から的確に予測するのは、現在の技術では困難です。

6 月 30 日は早朝から昼頃にかけて静岡市付近を中心に局地的に激しい雨が降りました。前日の予想資料によれば、大気の状態は不安定で局地的に雨の降る可能性は予想されたものの、大雨を予想する資料は特に見られませんでした。そのため、前日 17 時に出した 30 日の静岡県中部の予報は、「曇時々晴れ、宵のうちまで所により一時雨か雷雨」でした。

当日は、気象衛星で大雨時によく見られる「にんじん状の雲*」が観測され、下層の湿った空気が静岡市付近に集まり、最新の予測資料や気象レーダー、アメダスなどの実況により局地的な大雨の可能性がでてきたことから、朝 5 時の予報では「くもり朝夕雨か雷雨、朝の内まで所により一時激しく降る」と発表しました。

梅雨の最盛期から夏季にかけて「にわか雨」や「雷雨」の予報が出ている場合は、局地的に

突然の大雨となる場合もありますので、ご注意ください。



6 月 30 日午前 9 時の気象衛星赤外画像

にんじん状の雲

風上に向かって次第に細く毛筆状に集合している積乱雲群について、気象衛星画像で見えるその形状からこう呼ばれる。特に風上側の毛筆状の先端付近では大雨や突風などの顕著な現象を伴うことが多い。

左図中の矢印で示す「にんじん状の雲」の先端にあたる静岡市付近で局地的な大雨が降った。

【8 月の天気予報の利用にあたって】

8 月は、日本付近が広く太平洋高気圧に覆われるため、晴れて暑い日が多くなります。暑さの指標である夏日（最高気温が 25℃以上の日）・真夏日（最高気温が 30℃以上の日）・熱帯夜（夜間の最低気温が 25℃以上）の出現日数は、いずれも 8 月が最も多くなっています。地上付近の気温が高いため、上空に少し冷たい空気が流れ込めば大気の状態が不安定となり、雷雲が発達して、局地的に短時間の大雨が発生しやすくなります。特に山などに出かける場合には、雷雨の予報に注目して、天気の急変に対する注意が必要です。